

年度スローガン

～ 笑顔の`わ、みんなで`～



広報はばたき

第35号

新発田青少年健全育成市民会議



地域活動推進委員会主催

第10回 市民一斉パトロール

平成26年11月3日(月・祝) 出発式：新発田駅前公園

啓発活動：市内5か所

(コモタウン・パティオ西しばた・イオン新発田店・新発田駅前・カルチャーセンター)
他、中学校区



市内5か所での街頭啓発活動の様子

11月に取り組む「子ども・若者支援強調月間」に合わせ、毎年市民会議も青少年健全育成運動を行っています。市民一斉パトロールは今年度で、活動開始から10年になり、回を重ねるごとに活動の輪は広がってきています。

駅前公園での出発式後、市内5か所に活動場所を移して、啓発用クリアファイルを配布し、呼びかけを行いました。

小・中学校PTA、社会環境団体、地区青少年育成協議会のみなさんが街頭に立ち、青少年健全育成活動について理解と協力をお願いしました。





社会環境推進委員会主催

はぐくみ環境懇談会

平成26年12月3日(水) 会場 豊谷殿



- 新潟県新発田地域振興局児童相談所
- 新発田警察署生活安全課
- 市少年補導委員会
- 市民生委員児童委員連合会
- 新発田阿賀北地区保護司会
- 新発田地区少年補導員等連絡会
- 市防犯組合
- 市小中学校 PTA 連合会
- 市教育委員会
- 社会教育委員
- 新発田青少年健全育成市民会議

講演 「青少年を非行や犯罪被害から守るために」

講師 新発田警察署生活安全課長 佐藤 克実 様

青少年を取り巻くネット犯罪についてですが、出会い系サイトやコミュニティサイトによる被害者が後を絶ちません。18歳未満の子ども達を持つ保護者に、フィルタリングの責務を定めた「青少年インターネット環境整備法」があります。子ども達を犯罪から守るためフィルタリングをお願いします。

新潟県の犯罪情勢は、平成14年度の件数と比べ、現在は半数近く減少しました。要因の一つとして、地域のみなさんの「自分の地域は自分で守る」という防犯意識の高まりによるものと思います。防犯に強い関心を持ってもらい住民の連帯感、絆を強め、犯罪防止機能を向上させ、犯罪に強い地域を作っていくことが大事です。今後もこのことを念頭において、日頃の活動をお願いいたします。



佐藤 克実 様

各団体における取組状況について

青少年はぐくみ環境懇談会



下町交番地区防犯連絡協議会
会長 齋藤 光夫 様

今年度、活動の際に着用する「防犯ベスト」を建設業関係団体より寄贈いただき、パトロールの際に有効活用しています。

活動としては、西新発田駅前地域のパトロール、駐輪場の管理を行っています。最近では、パトロールを行っている店舗から「万引き件数が減少した」と感謝の報告を受けました。活動の成果が表れてきていると感じています。

今後の取り組みとしては、地域密着型のパトロールをし、地域住民の安心感、信頼感を築いていくことが重要だと考えております。また、地域の絆や連携を強くして、防犯意識の高揚を図れるような活動を展開していこうと思います。

平成17年度から小・中学生の下校時に街頭パトロールを実施しています。子ども達への注意喚起が促され、交通事故や犯罪防止に繋がると同時に、地域の現状を理解するきっかけとなっています。

また、この活動は地域の絆を強める意味もあり、児童・生徒だけでなく、地域住民へも思いやりの心を持って声かけしています。

現在は、子どもを含めた本丸中学校区の育成団体が連携して活動しています。今後は、11月の「子ども・若者支援強調月間」に合わせ、市民会議を主体として、他の中学校区とも連携を取り、活動していけたら良いと考えています。



外ヶ輪小学校区青少年育成連絡会
会長 高橋 大作 様



紫雲寺地区青少年健全育成協議会
会長 比企 広正 様

平成18年、その頃全国的に幼い児童を狙った犯罪や痛ましい事故が後を絶ちませんでした。子ども達の笑顔があふれる安心安全な地域づくりを目指し「れんぎょうパトロール隊」を結成しました。

活動内容としては、小中学生の登下校時の街頭指導、学校区ごとに危険個所の確認、冬期間の通学路変更時には、学校から依頼を受けて子ども達の登下校の指導も行います。

6年間登校を見守った児童から、卒業時に感謝の言葉をもらい、この活動を続けて良かったと思えました。今後も地域、学校、保護者が一体となり活動を続けていきたいと思っています。

青少年健全育成講演会

平成27年1月17日(土)
会場：生涯学習センター

演題 「食育を通して健全な若者の育成」

講師 にいがた製菓・調理師専門学校えぷろん 学園長 渡辺 弘子氏

～講師プロフィール～

新潟市生まれ。女子美術短期大学油絵学科卒業後、清心女子高校美術教師を経て平成3年 のちの「にいがた製菓・調理師専門学校えぷろん」を開校し、学園長就任
17年 技能五輪国際大会 日本代表大会審査員就任。この年以降製菓や調理における国内外の大会において、数多くの受賞者を輩出
25年 技術指導の功績で『にいがたの名工』に認定
26年 世界ジュニア製菓技術者コンクールで2大会連続の世界一を輩出
＜活動＞食文化、食育等の講演会 新潟日報こども新聞ふむふむ「きっちんくつきん」連載 NSTスマイルスタジアム「チャレンジクッキング」出演
＜著書＞「えぷろんお菓子ノート」「ひろ子先生の手作り大好き」ほか多数



講演会の様子
(来場者 約270名)

我が国の教育は、これまで知育・徳育・体育の三本柱の基本理念からなりたってきましたが、現在の食に関わる状況から、食品の安全・安心の確保、食と健康との関係の理解など、食の関心は非常に高まってきており、併せて食についての

食の大切さを伝える
三人の子育てをしている時に、子育てには何が一番大事なのだらうと考え「食べ物」に勝るものはないのではないかと思いました。「食べ物」は子ども達の体・心・未来を作ります。新潟の食文化が良くなることで、新潟が国を支え、さらには国が良くなるのではないかとこの考えを持ち、それを多くの子ども達に伝えるために専門学校を開校しました。

食育とは

食育の実践

＜食育の3つの柱＞

1. 食事についてのしつけをしっかりと行うとともにバランスの良い食事を心掛ける
2. どんなものを食べたら安全か、危険かという「選食」の力や知識を身につける
3. 食料や農業に関する問題や、環境問題を意識する

教育、すなわち「食育」の重要性がクローズアップされるようになりました。

- ① 楽しく正しく食べよう
食事のマナーを見直ししましょう。作ってくれた人に感謝し、家族一緒に会話しながら食事をします。栄養が体の中でどんな働きをするのかを知り、バランスの良い食事を摂ることで生活習慣病を予防できます。
- ② 安全なものを安心しておいしくたべよう
日頃から、味覚を育て、素材の旬を教えましょう。知識を持ち、情報を得ることで安全な食材を選ぶようになります。また、共に調理をすることで、食中毒の予防の重要性を教えましょう。
- ③ 食料・環境について
食料がいかに減少してき



実演披露

渡辺氏が指導した2名に鉛細工の実演をしていただきました。世界ジュニアコンクール世界一に輝いた技を間近で観ることができ、来場者からは「感動した」との感想がありました。

東豊学区青少年育成協議会長 石井 幸彦様
講演の内容で印象に残ったのは、先生は生徒達に、①「あいさつ」は必ずきちんとする。②不衛生になるのでトイレは3時間行かない。③先生の指導に口答えしない。と厳しく指導されるそうです。しかし生徒たちはこれらを実践し、素直で素晴らしいと言っておられました。そのことを自分に置き換えてみると「初心」を忘れてはいないか？と思いました。最後にキラキラ輝いた生徒達の実演を見せてもらい感動しました。

住吉小学校区母親クラブ 中村 光子様
食事のマナーや、旬の物を食べ、手伝いながら会話をすることが心の自立にも繋がる。それは私が子どもの頃、親に教わった食事の大切さ「もったいない」の精神と通じます。これを今も昔も変わりなく受け継ぎ、人に感謝できる子ども達を育てていきたいと思えました。また、世界一に輝いた鉛細工の美しさにも感動しました。

少年団体推進委員会主催

少年団体交歓会

わくわく合宿



11月8日(土)・9日(日) 胎内市 新潟県少年自然の家

市内の少年団体に所属する児童、応募による一般参加児童、あわせて102名の子ども達が参加しました。「役立つことを学ぶことができた」「違う学校の子と友達になれて嬉しかった」「また参加したい!」(参加者の感想)とあるように、充実した2日間だったようです。初めて経験することも多かったと思いますが、環境にすぐ順応し行動に移す力には、たくましさを感じました。



楽しかったグランドゴルフ! ホールインワンできたかな?



昼食を作るのは難しかったけど、おいしかった(*^_^*)



他の小学校の子ともすぐに仲良くなれたよ!



キャンドルの灯りがきれいだね



マッチで火起こしをしたのは貴重な経験になりました



あとがき

いつもより早い積雪で始まったこの冬も終わりを告げようとしています。待望の春の訪れとともに第35号をお届けします。この「はばたき」を全戸配布するのは「地域の大人が皆で、子ども達が健やかに育つよう見守りましょう」という決意の表れです。

たくさんの方があふれ、瞬間に広がり、消えてしまう今の時代。だからこそ、みんなで共有する大切なことは「活字」で伝え残していかなければならないと考えています。これからも大切なメッセージを「活字」にして発信するよう努力したいと思っています。家庭をはじめ、いろいろなところでの話題のきっかけにしてみたいと思います。

(編集委員 荒川真里子)

発行 新発田市青少年健全育成市民会議
事務局 新発田市青少年健全育成センター
住所 新発田市緑町二丁目六番三十六号
電話 (〇二五四) 二六一〇八九七

編集委員

佐藤 靖雄 前田 清
猿子 洋司 渡辺 富子
金田 緑 荒川真里子